

その他の道～浜街道～



播磨を訪れた旅人たち

播磨の国司として滞在

柿本人麻呂 齊明天皇6年(660年頃)―養老4年(720年頃)

飛鳥時代の歌人

『万葉集 11巻』

あひみては ちとせやいぬる いなをかも われやしかもふ きみまちかてに

訳: 逢ってから千年もたったのでしょうか、いや違うかな。私がそう思うのかな、あなたを待ちかねて。

柿本人麻呂は播磨の国司だったころ青山に住んでいたといわれています。人麻呂が奈良へ出かけた際、妻が石見から訪ねてくる夢を見て急いで引き返したという伝説があります。戻って妻を見た場所は「妻見ヶ丘」と名付けられ、今に残る人丸神社が建立されました。

加茂榊塚



菅原道真が大宰府へ左遷される途上で、細江に上陸し、賀茂社へ参詣したと伝えられています。出発に際し、道真が突きさした榊の杖が自生し、逆木(榊)天神として信仰されました。付近にある津田天満神社のお旅所には、道真公が休憩をとったという伝説があります。

国府山城跡



別名、妻鹿城、功山城。天正8年(1580年)、毛利攻めの拠点として姫路城を羽柴(豊臣)秀吉に差し出した黒田官兵衛は、父・職隆が隠居していた国府山城に移り住みました。近くには「チクゼンさん」と呼ばれる五輪塔があり、職隆の墓塔だと伝えられています。

松原八幡神社



羽柴(豊臣)秀吉が松原八幡神社を芝原(現・豊沢町)に移すよう命じたとき、黒田官兵衛は松原が由緒ある地であると論じ、神社はこの地にとどまることができたと伝わっています。また、神社があった場所がかつて松林で「粟生の松原」と呼ばれていました。古歌には「あふの松原」と詠まれ、「あふ」が「逢う」に転じて「恋の浜」とも呼ばれました。

小赤壁



木庭山、姫御前山、燈籠地山の南側の海岸は、高さ40m、長さ約800mにわたって荒波に浸食された奇岩がいたるところにある絶景です。頼山陽がこの地を訪れ、月夜に船を浮かべ風光を楽しんだ際、中国揚子江にある赤壁にちなんで命名したと伝えられています。付近には八家地蔵があります。

こしかけ岩



日笠山のふもとにある岩神社にある岩。その名の由来は、菅原道真がこの岩に腰を掛けたからとも、興をこの岩に置いたからともいわれています。

『伊勢物語』の主人公としても知られる

在原業平 天長2年(825年)―元慶4年(880年)

平安時代初期の貴族・歌人

『増位寺集記』

播磨路や糸の細道わけゆけば砥堀に見ゆる有明の月

貞観17年(875年)9月の増位山随願寺山王祭のとき、業平は勅使として訪れ、滞在中に有明峯(増位山の東の峯)でこの歌を詠んだといわれます。糸の細道とは砥堀から有明山までの道を指していると考えられます。この業平の歌からこの峰を有明の峰とも有明の山とも呼ぶようになりました。